

「2050年問題」というものがある。今までも、似たようなものはあった。日本の場合は、約30年後に、どのような問題が生じるのだろうか。超高齢化社会になり働ける人口が減少する、地球温暖化が進み、あらゆる弊害が生じる、AI化により人が働く場を失う。これらのことは、容易に想像できることであり、さほど驚きはしない。

驚かされたのは、コーヒーの問題である。世界中で多くの人に親しまれているコーヒーが、今、ある問題に直面している。それは、地球温暖化の問題である。農作物であるコーヒーは、環境の変化を受けやすい。地球温暖化の問題は、単に温度の上昇だけでなく、湿度の上昇や降雨量の減少など、様々な変化を引き起こす。こうした気候変動は、コーヒー栽培にも影響を及ぼす。収穫量の減少や品質低下を招く。被害が拡大すれば、コーヒー生産から撤退する生産者も出てくるかもしれない。今後、さらに地球温暖化による気候変動が進めば、コーヒー栽培に適した土地が大幅に減ることも予想される。

コーヒーベルトと呼ばれるものがある。コーヒーの主産地のことで、赤道を挟んで北緯25度から南緯25度の地域を指す。温暖化が進めば、2050年には最も生産量が多いアラビカ種の産地が半減すると言われている。

今の生活から、急にコーヒーがなくなったらと考えてみた。コーヒーは、嗜好品である。栄養の摂取を目的としておらず、風味や味、味覚や臭覚を楽しむための飲料である。これらは、非常に依存度の高いものである。それが、飲めなくなったとしたらどうだろう。あるいは、価格が高騰したら飲むのをやめるだろうか。

私の場合だが、ほぼ毎日飲むものの一つにコーヒーがある。飲むのが当たり前になっている。世界的に見ても、全世界で毎日25億杯も飲まれている。世界人口の約1/3が1日1杯は飲んでいるという計算になる。日本は、世界4位のコーヒー消費国である。1週間の1人あたり消費量は、11.5杯である。

これまで当たり前で飲んでいたコーヒーが、近い将来では当たり前ではなくなるかもしれない。人というのは、よほど切羽詰まった状態にならないと動かない。本気にならない。コーヒーに限らず、地球温暖化により様々な問題が発生することはわかっていた。にもかかわらず、まだ大丈夫、誰かが何とかしてくれる、何とかなるだろうと、超楽観主義に陥る傾向がある。

人間を含めて動物は、環境に適応しながら、この地球上で生き延びてきた。それは、これからも変わらない。変われるものだけが、生き残ることができる。果たして、人間は、どこまで変われるのだろうか。これからも飲み続けるであろう1杯のコーヒーが、30年後も自分の口に入ることを願いたい。